

GREEN ニュース

環境アドバイザー連絡協議会

代表 原田 邦昭

平成 30 年 10 月発行



群馬県環境アドバイザーの動き

(平成 30 年 9 月 20 日現在)新規登録 29 名

第 11 期(登録期間:平成 30 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日)です。新規登録者を含め平成 30 年 7 月 20 日現在、男 142 名女 70 名、計 212 名です。

自然環境部会 99 名 温暖化・エネルギー部会 68 名
ごみ部会 63 名 広報委員会 22 名が登録し活動されています。

表紙写真

ドイツの首都、ベルリンの市場風景。この写真のようにヨーロッパではほとんどの野菜がバラ売りされています。これに比較して日本では、個包装された野菜の販売が主流です。しかし、これらの過剰包装は大量のごみを生みます。

ゴミ減量のため、初めからごみを出さないようなシステム作りが必要です。

目次(執筆者)

表紙画像・文 顧問 鈴木 克彬

P2 環境政策課

P3 代表、温・エネ部会

P4 自然環境、ごみ部会

P5 前橋地区

P6 高崎地区

P7 渋川地区

P8 編集後記

「平成30年度みんなのごみ減量フォーラム」を開催しました

群馬県環境森林部環境政策課

平成30年9月18日（火）に、群馬県及び群馬県環境アドバイザー連絡協議会の共催で「みんなのごみ減量フォーラム」を開催しました。フォーラム当日は、定員を大きく上回る約140名の方がお越しになり、講演内容に熱心に耳を傾けていただきました。

第一部の講演会では、食品ロス問題専門家の井出留美氏を講師にお招きし、食品ロスの現状や食品ロス削減に向けた先進事例についてお話いただきました。講演途中では、食品ロス問題への理解を深めるクイズも実施され、回答の度に、来場者の方々が、食品ロスの現状に驚かれる様子も見られました。

第二部では、事例発表とパネルディスカッションを行い、日頃から地域で食品ロスの削減やリサイクルに取り組んでいる方々として、生活協同組合コープぐんま常務理事の杉本様、太田市立太田中学校1年の毛塚美結さん、一般社団法人中央ライフ・サポートセンター代表理事の遠藤様の3名に事例発表の御協力いただきました。

パネルディスカッションでは、群馬県環境アドバイザー連絡協議会の原田代表も加わり、来場者からの質問を中心に、群馬県のごみ減量をどう進めればよいか考えました。

平成28年度の群馬県の1人1日当たりのごみ排出量は全国ワースト5位、生活系収集可燃ごみの排出量は全国ワースト1位と、決して誇れるものではありません。

しかしながら、事例発表者及びパネリストとして参加いただいた太田市立太田中学校1年の毛塚さんの発表を受けて、小中学生でも、環境に強い問題意識を持ち、ごみ減量にむけて、コツコツと家庭からできる取組を実践している方もいらっしゃることは大きな誇りです。

ごみ減量に向けては、県民1人1人が、身近にできる事から取り組むことが、県全体として大きな成果につながり、フォーラムで掲げている「目指せ日本一！ごみの少ない群馬県」につながっていくと思いますので、環境アドバイザーの皆様には、より一層の御協力をお願い致します。

○環境サポートセンターからのお願い

「イベントカレンダーをご活用ください。」

県では群馬県環境情報サイト「ECOぐんま」内の群馬県環境ボランティア一覧のページ内で環境ボランティアの実施する各種イベント等を紹介しています。

環境アドバイザーの皆さんが実施する自然観察会や清掃活動や環境学習に関するイベント等の情報ありましたら、積極的に公開致しますので、情報をお寄せください。

★イベントカレンダーURL：<http://www.gccca.jp/volunteer/>)

★情報提供先：群馬県環境サポートセンター

電話：027-226-2827/FAX:027-243-7702

メール：ecosusumu@pref.gunma.lg.jp



第 6 回「みんなのごみ減量フォーラム」を終わって

9 月 18 日（火）は快晴の青空の下、すこし暑い日でした。

役員の方は 11：00 に県庁 2 階ビジターセンター入口に集合し、準備に入りましたが県の小柏、登坂、稲垣さん達にほとんどの準備をして頂いており展示部門の残り与会場の椅子の配置をしました。

12：30 には受付、会場案内の準備が整いました。定員 120 名に対して、143 名が登録され、今回は環境アドバイザーの会員も沢山参加して頂きました。

フォーラムは、環境アドバイザー岡本美由貴さんの名司会で式次第もスムーズに進行し、主催の原田、県の松下課長の挨拶がおわり、第一部の「食品ロスを減らすために私たちができること」のタイトルで井出留美先生の、本来食べられるのに捨てられてしまう食品ロスをどうすればなくなるか？をパワーポイントで上手に丁寧な説明がありました。

その後群馬県のごみ対策の状況について高井係長から楽しい説明がありました。

休憩 15 分間には皆さんを展示コーナーに案内し、ごみ減量グッズを見て頂き、また井出先生の書籍の販売もしました。

第二部事例発表では

- ・生活協同組合コープぐんまの杉本真佐己様に「混ぜればごみ、分ければ資源」について
- ・みどりの小道「環境日記コンテスト」金賞を受賞された毛塚美結さん（中学 1 年生）に色々な話をして頂きました。
- ・中央ライフ・サポートセンターの遠藤昌男様に「あたらしい食品循環で食品ロス削減」と題して「もったいない食品」を福祉施設等で有効活用している実践報告を聞きました。最後にパネルディスカッションで発表者の 3 人と原田。司会者は県の木島課長にコーディネーターには井出先生にして頂きフォーラムは滞りなく終了しました。これも県・環境政策課、廃棄物・リサイクル課の職員の皆様そして環境アドバイザーの会員のみなさまのご協力のお蔭と感謝しております。今回得たいろいろな知識を我らの活動に生かしてゆきたいと思っております。

尚、今回のフォーラムについては、9 月 29 日上毛新聞の三山春秋に掲載されました。

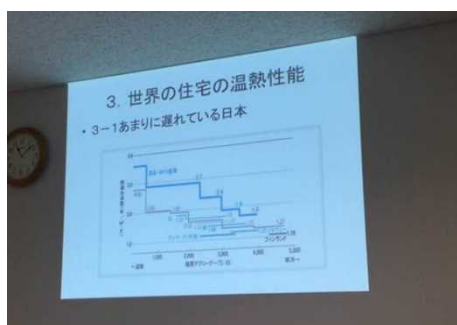
群馬県環境アドバイザー連絡協議会 代表 原田 邦昭

.....

温暖化・エネルギー部会の勉強会

温暖化・エネルギー部会では、二ヶ月に一度、部会を開催しており、会議の後半に勉強会をしています。第 11 期第二回目の部会（7 月開催）では、前橋の松井さんから「太陽光発電の普及」について、問題点や群馬県の地域特性などをお話しいただきました。

第三回目部会の勉強会は、外部の方を講師にお招きして「地球温暖化の問題から見た日本の住宅の課題」についてお話しいただきました。家庭内での節電省エネについては普及啓発がすすんでいます、家そのものについては



学ぶ機会もほとんどなく、専門家以外わからないような状態です。住宅はお金の多くかかる部分だからこそ、基本的なことを知る必要があります。日本の住宅基準の甘さ、健康との関係、製造から輸送、建築、使用する一連の過程での CO₂ 排出など、住宅問題におけるポイントをお話しいただきました。

次回（11 月 3 日 10 時から M サボ会議室）は、人が行動を起こすときの決定要素となるものを「行動経済学」から学ぶ予定です。講師は副部会長の酒井さんをお願いしております。アドバイザーとして普及啓発をするにあたり、大変興味深い内容になると思います。

温暖化・エネルギー部会長 奈賀 由香子

自然環境部会の活動

自然環境部会の活動は以下の様なものです。

原則として奇数月の第二土曜に前橋元気21で例会を行っています。

ここでは部会主催の行事以外に、各地域の自然環境保護に関連する情報交換をする事が重要なテーマと考えています。

部会主催の行事としては見学会などを実施しています。

今年7月には(株)チノーのビオトープを見学しました。その他体験学習としてみどり市の「カッコソウ」の株分け・移植を予定しています。

その他以前からの継続活動として、「高山村共有林」の下草刈りなどを年に5~6回行っており、秋には栗拾いと言う楽しみもあります。

こんな行事をやってはどうか?と言うご意見があれば御提案お願いします。

自然環境部会長 田中 和夫



草刈りの様子



9月9日実施の高山村共有林下草刈りの様子

.....

ごみの問題

朝わが家の近くのごみステーションには、分別されてないごみが出されている。中には賞味期限の切れた食品が、未開封のまま出されている。夜中にでも出すのだろうか、誰が出したかも定かではない。言うまでもないが、ごみは私たちの生活から生ずる廃棄物で、私たちは自ら廃棄したごみを適切に処理する必要がある。ごみの減量活動には精神力が必要とつくづく思う。そして、それを続けることは更に大変と思っている。

それはさておき、膨大なエネルギーをかけて作られる世界の全食料生産量に対し、その3分の1はごみとして廃棄されている。中でも食料廃棄率や一人当たりの廃棄量は、日本はトップクラスとなっている。もちろん、廃棄分や廃棄費用まで価格に含まれている。何とも言葉も出ない事実だが、単に聞き流してよいはずはないと思う。

中国やタイが環境対策のため、廃プラスチックの輸入をとりやめた。これがキッカケとなって、廃プラスチックが世界で問題となっている。多くの廃プラスチックは川を経て海に流れ込み、少しずつ小さくなって、マイクロプラスチックとなって残留し、漂流している。2050年までに海に流入するプラスチック総量が、世界の海に生息する魚の総重量を超えるとの予測もある。レジ袋やプラスチック容器など確かに便利だが便利さだけでは、ツケを将来の人類に回してしまうことになる。便利さや経済効率だけで良いのかどうか、考え直す時期に来ているのではないかな。

ごみ部会長 山田 一朗

南橋の自然観察と環境を守る会

この会は平成 13 年 5 月に地域の自然観察や学習会を通して、関係団体と協力して地域環境を守ることを目的に発足しました。会員は約 30 名、観察会は年 3 回、地域の自然を知ってもらうため、広く一般に呼びかけ参加してもらう事業を行っています。

地域の中心を流れる桃の木川には、県の準絶滅危惧種に指定されているアオハダトンボが多数発生し、清流に見られるバイカモも生育しています。2006 年よりアオハダトンボの発生数の調査を始め、今年で 12 年を迎えます。その間上武国道の工事、河川の改修、浚渫、流路の変更、堰の撤去等環境が大きく変わりましたが、毎年同じ場所、同じ時期に調査を続けてきました。

今年の 7 月 15 日(日)の観察会には、ぐんま環境学習（エコカレッジ）に参加し、環境学習を学んできた受講生 5 名に参加していただきました。第 2 回は 10 月 7 日(日)赤城白川の観察会、第 3 回は平成 31 年 1 月 27 日（日）敷島公園で冬鳥の観察会を予定しています。

これまでに、「橘山自然観察ガイド」・「桃の木川自然観察ガイド」・「九十九山と周辺の自然観察ガイド」の 3 カ所のガイドブックを作成し、関係者、各種団体、学校等に配布してきました。活動報告書も 17 号になり関係者、団体、県立図書館等に贈呈配布してきました。

地域の自然環境を守るため、先の時代まで環境の変遷を記録していきたいと思っています。



前橋地区会長 宗 義彦

「電車とバスに乗ってみよう！」ツアー

7 月 21 日（土）、公共交通の利用体験を目的とした、「バスと電車に乗ってみよう！」のツアーを地域環境学習推進事業として実施しました。前橋市、臨江閣を中心に、バスで前橋駅へ、電車で新前橋駅へ、バスで臨江閣へ、というルートを体験し、最後は臨江閣の貸室で休憩、まとめを行いました。ツアーには、子ども 5 名、大人 7 名が参加、そして、スタッフ 3 名が安全に楽しいツアーを支えてくれました。参加者の皆さんは、普段公共交通に乗らない方が多く、バス賃の払い方や、電車の運賃表の見方や買い方、に戸惑ったり、でも、車内からの景色を楽しんだり、様々な経験をしながら、バスや電車を身近に感じてくれたのではないかなと思います。まとめの時間では、それでもやっぱり車を利用してしまふ群馬県民…、「車を利用するときはエコドライブで」の話をしました。企画の反省として、参加者が少なかったことがありました。土曜日に設定してしまったことで、通院、お稽古、旅行で忙しい方が多かったです。開催日をいつにするか？次回に活かしたいと思います。また、宣伝方法も更に工夫したいと思います。



前橋地区 梅山 さやか

地域環境学習の実践報告

高崎地区会では井野川の水棲生物の調査と水質の調査をしました。

日時：平成 30 年 8 月 2 日(木) 9:00～11:30 (7/29 台風の為を延期した)

場所：高崎浜川運動公園東側の井野川にて

内容：

- ① 調査の範囲をロープで張る。
- ② 川の流れを測定。
- ③ 川幅を測定。
- ④ 川の水量を測る。
- ⑤ 川に入り網で水棲生物を採取する。
- ⑥ 生物をそれぞれの容器に分けて入れる。
- ⑦ 先生に採取生物の説明を受ける。
- ⑧ 調査票に採集物を記入する。
- ⑨ この川の汚れを決める。
- ⑩ 全員に報告し解散する。

前橋市は 39℃になるとテレビ報道あり、高崎市も暑い、木陰に集合し、土屋 清喜先生の川での採集方法や諸注意を聞き川へ移動する。当日は小学、中学、高校生、お母さん、地区の方、NPO 団体の方、県エコカレッジ受講生の方、そして主催の高崎地区会から 7 人で総勢 20 名でした。

川の水量は 12 号台風一過で少し濁っていたが、水量は少なく採取しやすかった。



川幅は 5～6m でした。参加された親は子どもの面倒を見ながら、高校生は自分なりに、女の子は休憩と言っても中々川から上がってこない、など、子ども達が真剣に取組み、保護者のお父さん、お母さんは大変そうでした。

今年で 14 回目の内容報告をインターネットで環境省へ報告もしました。

高崎地区 原田 邦昭

.....

金井沢の自然観察会報告

金井沢は高崎観音山丘陵の山名地域にある小さな沢です。上野三碑があり、高崎自然歩道「石碑の路」が整備されています。

この自然歩道沿いの整備活動を地域のボランティア団体、高崎商科大学、地域のエコクラブメンバーと共に実施しています。また、金井沢の水生生物調査は城山小の子供たちにより 25 年前から継続しており、昆虫観察会も 10 年以上になります。

観察会は毎年 7 月海の日に実施しています。例年ですと梅雨が明けての晴れ間に夏を感じる陽気になりますが、今年は異例の猛暑でした。9 時集合時にはすでに 30℃、あまりの暑さに蝶の姿も見えません。木陰を選んで虫取りをしました。バッタや蛇の抜け殻が主な収穫でした。自然歩道沿いの生物多様性アップ作戦として、整備活動ではニセアカシアの伐採とクヌギの植栽、外来植物の排除などを実施しており、子どもたちにも生態系の学習としてセイタカアワダチソウの抜き取り作業をしてもらう予定でしたが暑さを考慮して中止し、多少涼しい金井沢の水辺での魚とりに変更。

子どもたち 10 数名と学生さん、父母、指導員などの参加で、熱中症予防に水分補給と休憩を十分にとり、早めに切り上げて 11 時に戻ったときは 34℃でした。以上、猛暑の中、木陰や水辺の涼しさを肌で感じて森林が果たす温暖化への役割を学び、虫もあんまり暑いと活動していないという発見ができ、『実は整備活動により生物多様性が高められつつある金井沢の観察会』報告でした。



「観音山丘陵の自然を守るネットワークの会」 西野 仁美

.....

渋川市 自然観察会活動報告

去る 7 月 30 日、夏休みの自由研究として、小学生 13 人を対象に市内の滝沢川に住む生き物の調査を行いました。初めてのことで戸惑いしましたが、太田市の西村先輩はじめ中島、梅山、鈴木様のご指導頂き当日を迎えることができました。参加した子どもたちは川に入ると大はしゃぎ、石をはがしては、これはなんの虫？などとあちこちで声が上がりました。

また、タモ網でサワガニやオタマジャクシなど捕まえて歓声を上げました。観察会では藻の採取や流速の測定なども行い時間のたつのを忘れていました。最後に採取した水と生き物を持ち帰り、水質検査(COD)では、米のとぎ水との比較を、更に顕微鏡では藻の模様の観察などを行いました。

調査結果は、水はきれい、流速 25cm/秒、深さ 40cm、水温 25℃でした。滝沢川はこれまでの調査でも比較的きれいな川といわれています。今回の観察でも清流を代表とするサワガニが棲息するなど良好な水質が保たれていることが分かりました。

来年も環境が整えば川を変えて実施したいと思います。



渋川市 伊藤 朝弘

座談会：編集後記にかえて

8月1日に行われた広報委員会で、広報委員長(井上 金治)と二人の副委員長(酒井 義明、小峯 幸子)が新しく決まりました。このため、今回は編集後記にかえて Q&A 形式の座談会を行い、新スタッフの紹介を兼ねたいと思います。

Q 1 なぜ環境アドバイザーに登録しましたか

井上：私は、子供のころ経験した我が国の豊かな里山の自然が、近年急速に失われていくことを危惧しております。

この問題を解決するために、環境を重視した農業（ecological farming）を普及する必要があります。このため、環境アドバイザーに登録し、同じ考えをお持ちの方と共に活動したいと考えました。

酒井：私は、「ぐんま環境学校（エコカレッジ）」の受講を機会に環境アドバイザーに登録しました。ではなぜエコカレッジを受講したかという、子育ての中で PTA の活動にかかわることができたのですが、その中で社会貢献への活動の場を求めている方も多いことを知り、環境についての活動は如何？と進めるためです。

小峯：私の勤務地が県内から県外に変わって数年、群馬に根差した何かをしたいと思っていた時、たまたま新聞広告に出ていたエコカレッジがきっかけです。ごみ・水・里山・尾瀬・資源の循環などの keyword で群馬の環境問題などを学んだあと、「実は群馬には環境アドバイザーという仕組みがあつて」と。ならば具体的な行動に結びつけられるのでは、と思い登録してみました。

Q 2 グリーンニュース（GN）の役割と今後の課題などについて

井上：環境アドバイザーは支部会や各専門部会において多くの活動をしておりますが、各部会間での情報交換が十分でないように思います。また、各部会での行事などを共有する必要があります。GNが各部会間での情報交換の場として活用できるようにしたいですね。

酒井：そうですね、情報の共有はとても大切だと思います。多くの環境問題は複雑に絡み合い、「ゴミ」とか「エネルギー」「自然」と単純に分けられるものではないと思いますので、各部会に共通する話題を GN を通じて上手に表現することにより横のつながりが広がると良いですね。

小峯：そうですね。皆さまの活動は多岐に亘りますから、記事を寄せていただいたら GN の紙面では足りないかも。いずれは、広報委員会としての活動の広がりをお見せしたいですね。

Q 3 その他思いつくことなんでも

井上：残念ながら今年の異常気象など、これまでになかった変化が表れてきたように思います。また、種の絶滅が急速に進んでいます。この点、副委員長の若いお二人は環境問題をより身近なものに感じていることと思います。この事に関しご自由な意見を述べてください。

酒井：SDGs でも「誰一人取り残されない包摂的な世の中をつくっていくことが重要」と強調されています。日頃からの環境アドバイザーの方々の行動にはいつも感心させられます。この良い手本をどうにか広め、“気づき”から“行動”へのきっかけをみんなで考えていきたいです。

小峯：私もエコカレッジや地区会のご案内などを通して、群馬県が抱える環境問題を考えるきっかけをいただいています。こういったチャンスを多くの方と共有できるように活動していきたいと思っています。

私たちはバックグラウンドが異なりますが、持続可能な社会を実現したい、という共通の思いを持っていることが確認できました。これから GN を育て、環境アドバイザー間の活動の輪を広げることに活用できるように努力したいと思います。

表紙について：グリーンニュースは年4回発行されますが、本号から各号に季節を付記することにしました。各号がよりなじみ深くなることを願っております。